

雨晴(高岡市太田)の大露頭

この露頭では、クロスラミナなど水流の方向を示す層と、石灰質砂岩の層を観察することができます。

○石灰質砂岩



高岡市の中山間部には新生代新第四紀に堆積した、頭川層や大桑層などがあります。太田地区では氷見累層に属する矢田砂岩を見ることができます。矢田砂岩が堆積したのは200万年ほど前と比較的新しいのですが、非常に固くなっていることが特徴です。これは、砂岩の中に「有孔虫」と呼ばれる動物性プランクトンの化石が多く含まれていることが原因です。有孔虫化石から溶け出したCaが周囲の砂を固めたため固くしまった石灰質砂岩となりました。

高岡付近の庄川や小矢部川の川原には巨礫が少なく石材が手に入りやすかったため、太田地区の石灰質砂岩は墓石や礎石の用材や、庭石として使用されていました。この石灰質砂岩は二上霊園の古い墓石や桜谷古墳の石室にも使われています。

○ 石灰質砂岩の利用

有孔虫の殻は、炭酸カルシウムできています。この成分は、石灰石と同じです。高岡市の国吉から守山地区にかけて有孔虫化石を多く産出します。また、この有孔虫化石を含む土砂は大量に採取され、高岡市や射水市、富山市の学校のグラウンドや植栽の表土としても使われています。



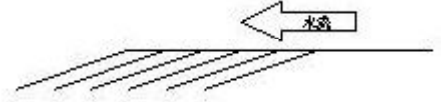
代表的な有孔虫
エルフィジウム



塩酸と石灰質砂岩の反応

○ 古水流を復元する手がかり

この大露頭の一部に他の層とは傾きの異なる部分が見られます。これは斜交葉理（クロスラミナ）と呼ばれるものです。水流で運ばれてきた砂が堆積する際、このような現象が起こります。



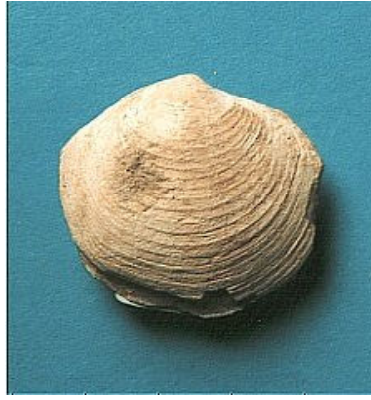
雨晴の露頭

斜交葉理

斜交葉理のでき方模式図

○ 産出する化石

この露頭では、貝などの化石はまれにしか見られません。一番下の泥岩層でオウナガイやツキガイモドキなどの二枚貝の化石を見ることができます。



貝化石の産状

ツキガイモドキ

オウナガイ